

府中市「国衙地区」探訪

2022-11-08 記 小倉洋一

■実施日：2022-11-04(木)

■参加者：17名

■行先：府中市国衙地区

■ガイド：府中市観光ガイド

コロナ禍により3年前の企画がようやく実施の運びとなった。律令時代(奈良時代初期～平安時代中期頃)に武蔵国の国府が置かれたのが、現在の東京都府中市である。大化の改新後に政治や経済・文化の中心地として栄え、江戸時代は甲州街道の宿場の中でも大きな「府中宿」があった。

今までのサークル活動では「発掘調査からみた古代道と中世道」を埋蔵文化財調査センター根本主査の講師による講座、「鎌倉街道の歴史的背景」を所沢の鎌倉街道を歩く会代表岩田武夫氏の講師で学び、所沢から武蔵嵐山まで40km、所沢から鶴岡八幡宮まで80km、計120kmを4年12回に分けて踏破した鎌倉街道や東山道武蔵路遺構の「東の上遺跡」や西国分寺住宅の東側にある東山道武蔵路跡の古代の道路遺構などを散策してきた。

今回は律令時代の国衙地域を府中市観光協会のボランティアガイドの案内で探訪した。

◆行程。

スタート・府中本町駅⇒国司館と家康御殿史跡広場⇒高札場・御旅所⇒大國魂神社⇒武蔵国府跡⇒馬場大門ケヤキ並木まで。約2km、2.5時間

当日は酉の市のため、大國魂神社参道等の混雑が予想されること、国司館・家康御殿広場のVRスコープが12台であること、などから2班に分かれての活動であった。

◆国司館と家康御殿史跡広場

武蔵国府の役所中枢施設を「国庁」、官庁街を「国衙」、そのほかの施設を含む範囲を「国府」という。武蔵国府は飛鳥～奈良時代の初め頃(7世紀末～8世紀初頭)から平安時代の終わり頃(11世紀代)にかけて武蔵国を治めていた行政機関であり、交通の要衝でもあったことから、政治・行政・文化・経済の中心として栄えていた。発掘調査で見つかった柱跡の上にコンピュータグラフィックスで当時の館の一部が復元されている。



律令時代の国司館主殿 復元

約400年前には徳川家康がここに府中御殿を築いた。江戸時代後期の地誌「武蔵名勝圖會」(植田孟縉著)に、家康が「府中は古より府庁の地と兼ねて聞召されければ、…」と御殿造営を命じた経緯が記されており、新たな領主となった武蔵国において、領国支配の正当性

を示す上でも古代武蔵国府の所在地に御殿を築くよう命じたものと思われる。家康はここで奥州仕置きの際にあった豊臣秀吉を饗応し、秀忠との対面などを行ったほか、鷹狩などでたびたび訪れたとされている。



古代武蔵国府の国司館と徳川家康府中御殿のイメージをわかりやすく人物が動く映像を入れたVR映像で見られる。管理事務所で武蔵国府スコープを借りてポイント0～案内に従い順次各ポイントを巡る。

ポイント0. 使用上の注意点。

ポイント1. 模型の解説と上空から国府域全体が見られる。

武蔵国府スコープでVR映像を見る ポイント2. 古代の蹴鞠を再現したシーン。

ポイント3. 主殿内部で行われていた万葉集を詠む宴の再現シーン。

ポイント4. 徳川家康府中御殿で鷹狩に行く前のシーンと多摩川周辺での鷹狩を再現したイメージ映像。

ポイント5. 発掘調査が行われていた時の現場を見ながらお宝を探すゲーム。

VR映像でみる古代武蔵国府の国司館と徳川家康府中御殿のイメージが眼前に現れ説明もわかりやすかった。

◆高札場

高札場とは、江戸時代に幕府の政策や禁止令などを書いた板の札（高札）を掲示する施設である。村や宿場などの中心地に設けられ、幕府の威光を示す重要な役割を果たしていた。

府中高札場は旧甲州街道と府中街道に面した往来の多い宿場であったため、他の村よりも多くの高札が掲げられた。

天保9年(1838)には10枚の札が掲げられたことが記録に残っている。その内容は、親兄弟仲良く暮らすよ

うに、といった生活態度のことや、宿場駄賃などの生活に密着した内容、切支丹禁止や鉄砲禁止といった幕府の基本政策など内容は多岐にわたっていた。



高札場

◆大國魂神社

1900年の歴史を持つ古社で当時は武蔵国造が代々奉仕してきたが大化の改新以後、この地に武蔵国の「国府」が置かれて以来、(国司)が祭祀を執り行ってきたが、平安時代に各諸神を合祀する「総社」が置かれ武蔵国では、大國魂神社が総社となり、さらに、平安末期には著名な六か所の神社を合祀して「武蔵六所宮」と呼ばれるようになった。武士の世の中になっても広く武将たちの信仰を集め鎌倉幕府及び北条・足利氏も篤く崇敬した。徳川家康が江戸に幕府を開くと新領地500石を寄進した。



明治4年(1871)に武蔵総社大國魂神社と改称した。大國魂神社の例大祭である「くらやみ祭」は、4月30日の「品川海上禊祓式」から5月6日の神輿還御までの7日間で様々な神事がとり行われ、東京都指定無形民俗文化財に指定されている。

◆摂社・末社

大鳥居

○宮乃咩神社 御祭神に演芸の神、安産の神で崇敬を集める天鈿女命が祀られていて、古くから芸能上達や安産祈願で信仰を集めている。北条政子も安産祈願に訪れたと伝えられる境内には、奉納された絵馬や「柄杓」がたくさん掛けられている。

○大鷲神社 御本社は大阪堺の大鳥神社でその御分霊を祭祀している。元は武運を守護する神として信仰されたが、現在では「おとりさま」と称され開運の神・商売繁盛の神として信仰が厚い。毎年11月の酉の市には商売繁盛を祈念して多くの人を訪れる。「関東三大酉の市」といわれているのが浅草・鷲神社、新宿・花園神社、府中・大國魂神社である。今年は三の酉まであり今日11月4日は一の酉で境内では商売繁盛を祈願する参拝客や露店が並び大変混雑していた。

◆武蔵国府跡

武蔵国府跡は国の史跡にもなっているが、大國魂神社の東側にある国衙跡には、発掘で見つかった当時の国衙の中核にあった建物の柱をモニュメント風に復元。武蔵国の国衙は、昭和50年以降の発掘調査で現在の大國魂神社の敷地内にまで及ぶことがわかっている。国衙エリアからは大型建物跡が発掘され、古代のレンガ、瓦、硯などが多数出土されている。復元された柱は、「正殿」に匹敵する国衙中核建物跡の柱と推測できる。

◆馬場大門ケヤキ並木

源頼義・義家父子が 永承6年(1051)～康平5年(1062)「前九年の役」のために奥州に向かう途中、大國魂神社に立ち寄り戦勝祈願をした。安倍氏を平定した後、義家は帰途再び立ち寄り、勝利の御礼としてケヤキの苗木1000本を寄進したのがケヤキ並木の由来と言われている。(諸説あり)

小春日和のなか府中市観光ボランティアガイドの説明とサークル仲間と話し合い学びながらの活動は大変楽しいものである。そして、酉の市の祭礼とサークル活動が一緒になったことにも感謝して解散となった。

担当 Dグループ

青木裕子、大越理恵、清水とも子、曾部康子、山本苗子、
粟屋貴夫、猪木誠二、小倉洋一、喜多 寛、



参道（西の市の提灯）



宮乃咩神社 安産祈願の柄杓



大國魂神社 御神木



大國魂神社宝物殿



馬場大門ケヤキ並木 源義家公銅像前